

## 令和4年度 社会福祉法人陽和福祉会事業計画

### 法人本部

#### \* 基本目標について

本年度は開設からどんぐりの森が9年目、どんぐりの家が5年目を迎えます。基本理念の「住み慣れた地域で安心して生活が送れるよう、友愛と福祉の精神をもって、多様な福祉サービスを提供し、地域福祉の推進に努めます」の実践に努め、地域の高齢者福祉の向上に一層努めていく。また、令和4年度においても感染拡大が懸念される新型コロナウイルスの防止対策を徹底し、安全で安心して暮らせる「サービス」の提供に努める。

#### \* 人材の確保と資質向上について

入居者・利用者の皆さんに安定して質の高いサービスを提供できるよう、ハローワーク、ホームページなどを通じて事業所の雰囲気や求人情報を伝えながら求人募集を行うなど採用活動に力を入れる。研修については感染対策のため、参加者数を抑えた集合研修を実施する。外部研修については昨年度に引き続きオンライン研修への積極的な参加を推奨し、職員の資質向上に努める。また、処遇改善加算、特定処遇改善加算、処遇改善支援補助金を活用しながら適正な人事考課により評価に応じた昇給などを行い、職員のモチベーションを高めていく。

#### \* 安定した運営について

昨年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響もあり事業所によっては稼働率が低下した。本年度は稼働率の向上を重点課題として取り組み、安定した収入の確保に努める。また、水道光熱費を始めとする経常経費の見直しや定期的な経費削減を図り安定した運営に努める。なお、近年の大規模災害に対応するため業務継続計画を策定し、非常時にも対応できるよう必要備品等の整備に努めていく。

#### \* 運営推進会議の開催について

特養、グループホーム、小規模多機能の3事業所合同の会議を2か月に1回のペースで開催。デイサービスでは年に1回開催する。スライドを使って施設の取り組み等、事業所の運営、日々の生活ができるだけわかりやすく皆さんに伝えられるようにしていく。最近の2年間は感染対策のため書面での開催もあったが、新年度においては感染状況を注視し予防対策も十分に行って安全に運営推進会議が開催できるよう努めていく。

#### \* オレンジプラスカフェ（認知症カフェ）などの開催について

喫茶どんぐりにおいて一次は再開したものの現在は感染対策のため入居者の方のみの参加で月2回の開催ペースを維持している。毎回職員が工夫を凝らしてお菓子を作り皆さんに提供している。市中の感染状況を見ながら、十分な感染対策を行い、地域の方も参加できるよう工夫していく。また、隣接の障害者支援施設はるひ荘の入所者による日曜のコーヒーショップも同様、新型コロナウイルス感染症への対策をしっかりと行っただけで再開する。

#### \* 情報発信について

季刊誌「どんぐり広場」の内容を充実するとともに、ホームページによる情報発信に努めてい

く。ホームページを活用し、法人の情報や施設内の雰囲気を積極的に発信するように努める。各ユニット単位のささやかな行事も発信できるようにする。

＊ 地域との関わりについて

昨年度も夏まつり、地域防災訓練等がことごとく中止になった。ご家族の面会も満足に行えないなど、地域の皆さんとの交流が全くと言っていいほどありませんでした。本年度も感染拡大状況を踏まえながら地域の皆さんとの交流の新しい形も模索していく。

## 地域密着型特別養護老人ホーム（入居定員29名）

＊ 事業の内容について

施設サービス計画に基づき、明るく家庭的な環境のもと、食事、入浴、排せつ等の日常生活の援助及び日常生活の中での心身の機能訓練を行うことにより、安心と尊厳のある生活を、入居者がその有する能力に応じ可能な限り自立して営むことができるよう支援していく。開設から8年を経過し、ほとんどの入居者が要介護度4または5となった。春日井リハビリテーション病院との連携により皆さんが安心して生活していただけるよう努めていく。

＊ 稼働率について

居室は常に満床の状態になるよう努力していく。昨年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響もあって、入居までに時間がかかるケースが多かった。部屋が空いたら入居までがスムーズにいくよう病院等、関係機関との連携を強化していく。また、特別養護老人ホームの入居指針にあるように入居の必要度の高い方を優先的に入居させていく。

＊ 行事

最近2年間は新型コロナウイルス感染症の予防対策のためご家族を招いての行事はできなかったが、今年度は感染症の予防対策を施したうえで行事を実施していきたい。夏には夏まつり、年末には餅つきと年2回の全体行事を実施するとともに、各ユニットにおいてはユニット単位で「ユニット調理」「誕生会」等の行事を随時実施し入居者の皆様に有意義な時間を過ごしていただく。

＊ ボランティアの参加

昨年度においてもほとんどのボランティア活動をお断りするという非常に残念な一年となった。感染拡大の状況を見ながら以前のように各種ボランティアが再開できるよう努力していく。

＊ 研修

年に2回の「事故防止」「感染対策」、年に1回の「身体拘束」の研修を必須とした年間研修計画を作成し、計画的で質の高い研修を実施する。新入職員向けの研修など職員の習熟度に合わせた個人別の研修や外部研修にも積極的に参加させ職員の資質の向上に努める。

看護職を中心に医療に関する研修の充実を図り、医療処置を必要とする入居者に対し安全かつ適切に対応できるよう努める。

様々なオンライン研修が行われるようになってきたので積極的に参加するよう促していく。

＊ ユニットケアの実践

24時間シートの質を高め、ユニット型の小規模特養の特性を活かし入居者の皆様が自宅で過ご

しているような雰囲気暮らしの継続を図っていく。感染拡大の状況を見ながら植物園へのお出かけや中庭の散歩など、天気の良い日には散歩を楽しんでいただくようにする。

\* ご家族への対応について

昨年度も面会制限がある中で、窓越し面会、オンライン面会、端末を利用した画像の発信など入居者のご様子をご家族に伝える手段を工夫してきた。今年度は状況を見ながら緩和していきたい。

## 認知症高齢者グループホーム（入居定員18名）

\* 事業の内容について

認知症によって自立した生活が困難になった入居者に対して施設サービス計画に基づき、明るく家庭的な環境のもとで、食事、入浴、排泄等の日常生活の援助及び心身の機能訓練を行うことにより、安心と尊厳のある生活を入居者の有する能力に応じ可能な限り自立して営むことができるよう支援していく。

\* 稼働率について

待機者もありほぼ満床で推移しているが空室ができてから入居までに時間がかかっていた。小規模多機能型居宅介護事業所などと連携し、空きができたなら順次案内し満室の状態の継続に努めていく。歩行が不安定な方など要介護度が進んだ方には計画的に特養へ移るなど、適時適切に本人の状態にあった環境に移っていただくようにしていく。また、関係医療機関等との連携の強化を図り、入居者が長くグループホームで過ごしていただけるように努める。

\* 行事

昨年度もご家族を招いての行事ができなかった。今年度は感染拡大の状況を見ながら夏まつりや餅つきなど感染症の予防策を十分に行い年2回の全体行事を実施する。屋内外のレクリエーション、地域での行事への参加、飲食店への外出等入居者の趣味嗜好に合わせた活動を行っていく。

\* ボランティアの参加

例年は月に3～4回、いろんな団体の方が定期的に来ていただいていた。感染拡大の状況を見ながらグループホームの特性に合ったボランティアの皆さんに来ていただき、入居者の生活の質の向上が図れるよう協力をお願いしていく。

また、ユニットにおいて一人ひとりの嗜好に合わせたボランティア（絵葉書・傾聴等）も充実させていく。

\* 研修

年間研修計画を作成し事故防止、感染予防等の知識を高める。新入職員向けの研修をはじめ職員の習熟度に合わせた個人別の研修や外部研修にも積極的に参加させる。

また、認知症高齢者に対するケア・接遇に関する研修に積極的に参加、施設内でも伝達講習を行い全職員が認知症高齢者に充実したケアが行えるよう努めていく。各所で行われるようになったオンライン研修も活用し従来よりも数多く参加の機会をつくっていく。

\* グループホームの特性を活かしたケアについて

炊事・洗濯・お掃除・布団干し等、日常の活動を入居者の皆さんとともに機能の維持向上に努める。歩いて買物ができる場所がないので、感染拡大の状況を見ながら入居者の皆さんと共に車を利用し買い物等に行くようにする。敷地内の広さを活かし、入居者の皆さんに天気の良い日には園芸活動へ参加していただいたり、中庭を散歩するようにする。

\* ご家族への対応について

昨年度はほとんど面会禁止であったが、窓越し面会、オンライン面会、端末を利用した画像の発信など入居者のご様子をご家族に伝える手段を工夫してきた。今年度は状況を見ながら緩和していきたい。

## 小規模多機能型居宅介護事業所（登録定員25名、通所定員15名、宿泊定員6名）

\* 事業の内容について

利用者がその自宅において、可能な限り自立した生活を過ごすことができるよう、居宅サービス計画に基づき通い、訪問、宿泊の各サービス形態で必要な日常生活上の援助を行うことにより、利用者の孤独感の解消及び心身機能の維持並びに利用者の家族の身体及び精神的負担の軽減を図るものとする。地域の高齢者の皆さんが可能な限り自宅での暮らしが継続できるよう、本人だけでなく介護者も併せて支援する。また、ケアマネジメントに力を入れ、地域の社会資源の把握に努め、利用者の幅広いニーズに応えるようにする。各事業所独自のサービスを行っている小規模多機能型居宅介護事業所の中でも、「どんぐりの森」ならではの特色ある事業運営に努めていく。

\* 稼働率について

現在利用者は23名、さらに登録定員25名に近づけるよう努力していく。宿泊もできる事業所のため居宅サービスにしては利用者の介護度が重くなっている。ひとり暮らし高齢者等の在宅での生活を支援していくため、訪問、通いの利用者を募り、サービス体制を整え積極的に利用者の拡大を図っていく。

\* 行事

感染拡大の状況を見ながら夏には夏まつり、冬には餅つき大会と年2回の全体行事を実施する。小規模多機能型居宅介護事業所特有の柔軟な対応を利用し、近隣の公園への外出、屋外でのバーベキューなどを行い、楽しく充実した日常生活を送っていただくようにする。

\* ボランティアの参加

以前は月に3～4回、いろんな団体の方が定期的に来ていただいていた。感染拡大の状況を見ながらいろいろなボランティアの皆さんに来ていただき、入居者の生活の質の向上が図れるよう協力をお願いしていく。また、ユニットにおいて一人ひとりの嗜好に合わせたボランティア（絵葉書・傾聴等）も充実させていく。

\* 研修

年間研修計画を作成し事故防止、感染予防等の知識を高める。新入職員研修など職員の習熟度に合わせた個人別の研修や外部研修にも積極的に参加させる。

利用者の送迎等により職員が車の運転を行うことが多いため、運転講習や交通安全講習を定期的

に行い安全運転の徹底を図り職員の交通事故防止にも努める。

訪問サービスの強化を推進するため接遇マナーの研修を定期的に行い、職員全員が利用者宅において気持ち良い対応が出来るように努める。

各所で行われるようになったオンライン研修も活用し従来よりも多く参加できる機会をつくっていく。

\* ご家族への対応について

引き続き新型コロナウイルス感染拡大に注意を払いながら感染予防に最大限の注意を払い、サービス提供を続けていく。介護支援専門員による毎月1回の自宅訪問を通して、ご家族の意向をしっかり聞き取るようにする。

## サービス付き高齢者向け住宅（入居定員33名）

### \* 事業の内容について

サービス付き高齢者向け住宅を中心とする愛知県の地域包括ケア団地モデルの一環として、平成30年5月に開設。食事の提供と安否確認・生活相談サービスを行うことにより、快適で心身ともに充実、安定した生活ができるよう支援していく。また、要支援・要介護者の方には訪問介護、訪問看護、通所介護事業所等と連携しサービスの活用を促し安心した生活が送れるようにしていく。

### \* 稼働率について

昨年度2月末時点での稼働率は93%（前年度稼働率94%）。長引くコロナ禍で入居希望者の見学・申込みが減少している中で、他事業所との連携や積極的なPRに努めていく。

### \* 行事

一昨年に続き前年度もコロナ禍で夏まつりを始め多くのイベントが中止・縮小されましたが、感染拡大の状況を勘案しながら夏まつり等の実施について検討していく。

### \* 地域交流ホールの活用

昨年度はコロナ禍で運動教室、ボランティア活動などは全て中止となった。

今後は周辺の感染状況を注視しながら再開のタイミングを図っていく。

### \* 職員研修

新年度はオンライン研修を積極的に活用し、従来行っていたのと同等の研修を計画的に実施していく。

### \* 環境整備

外出自粛の状況下でも敷地内の散歩で気分転換が図れるよう、花壇や松林の環境整備を進める。

## 通所介護事業所（通所定員15名）

### \* 事業の内容について

利用者の有する能力に応じ、可能な限り居宅において自立した日常生活を営むことができるよう、生活機能の維持・向上をめざし、日常生活上の支援や機能訓練を提供する。

### \* 稼働率について

現在、利用者36名（12名がサ高住の入居者、24名が外部からの利用者）、2月末時点の稼働率は76%。今後とも新規利用者の拡大に努めていく。

### \* 行事

コロナ対策に留意しながら夏まつりや運動会、クリスマスなど季節行事を中心に可能な限りイベントを計画していきたい。

### \* 職員の資質向上

コロナ禍ではあるが可能な限り研修への参加、オンライン研修の活用を促し、個々のレベルアップを図っていく。併せて事業所内の勉強会の機会も増やしていく。

職員へのOJTや研修への積極的な参加で個々のスキルアップを図り、サービス向上に努める。また、業務・役割の見直しや効率化に努める。

## 訪問介護事業所

- \* 事業の内容について

職員間の情報共有を図り、定期的にモニタリングやカンファレンスを行い、どのような支援・援助が必要かサービス計画を作成し、利用者に適切なサービスの提供していく。

- \* 職員の確保と資質向上

年間研修計画を策定し、計画的な研修の実施に努める。また、オンライン研修への参加、職員の介護福祉士資格習得を推奨する。

十分なサービスを安定して提供できるよう職員の確保に努める。

## 訪問看護事業所

- \* 事業内容

事業所スローガン『住み慣れた地域で安心してその人らしい在宅療養生活に寄り添った看護を提供します』を掲げ在宅生活を支援していく。

- \* 事業収入について

新型コロナウイルス対策に留意しながら、感染予防、職員のレベルアップを図り、関連事業所との連携を密にし利用者の拡大を図っていく。

- \* 職員の確保と資質向上

現職員数（常勤2名、非常勤2名）を維持する中で、利用者の拡大に併せて職員増を図っていく。

研修への参加が難しい状況の中で、コロナ対策で普及してきたオンライン研修への積極的な参加を促していく。